

市長室：対話の記録

要旨

開催内容の公開

対話の内容

市長のあいさつ(はじまり)

内容

市長のあいさつ(終わり)

第3回目となる今回は、市内の西地区、中央地区、新旭川地区にお住まいの方をはじめとする市民の皆さんと懇談しました。

23の方が参加し、地域特有の課題や、市政やまちづくりに対する意見など、活発な意見交換が行なわれました。



日時	平成19年2月5日(月) 午後6時30分～8時
場所	旭川市民文化会館 大会議室(旭川市7条通10丁目)
出席者	・西川市長 ・市民(23人)

対話の内容

市長あいさつ(はじまり)

旭川市長の西川でございます。

今日は、お忙しいところお集まりいただき本当にありがとうございます。

日ごろから市政やまちづくり、行政に対しご理解をいただいておりますことに感謝申し上げます。また、本日お集まりの皆様は、特にまちづくりに対して日ごろから問題意識や高い意識を持って、将来にわたって地域を良くしていきたいという思いを持っている皆様ではないかとご推察するところでございます。

今まで2回まちづくり対話集会を開催しましたが、今日3回目ということで地域で初めての開催でございます。今日は、西地区、中央地区、新旭川地区の皆様を中心にお声をかけさせていただいたわけでございます。

中央地区、西地区は旭川市に置いても歴史がある地域であり、中心街でございます。

中央地区内には、旭川駅があったり、鉄道の高架工事が進められている中で、買物公園のにぎわいに対しても様々な問題がありま
すし、西地区では、今のくにもと病院のところ、当時の寺子屋のよ
うに勉強する施設ができた地であります。

私は、こういった地域にお住まいの皆様からいろいろな意見が出てくるとありがたいという思いでございますし、また地域に関わらず、市全体や上川全体に対してのお知恵などもいただきたいと思っています。



今回の選挙における市民の皆様に対する約束の一つとして、このまちづくり対話集会を開催させていただきたいということでございますが、市民の皆様の声をどれだけ肌身で感じることができるかということが一番の目的だと思っておりますし、その中でご意見をフィードバックさせて一つでも実行に移すことができれば素晴らしい成果ではないかと考えております。

今日、いろいろご意見をいただく中で、私がこの場でお答えできることもあるでしょうし、市から幹部、管理職もきておりますので、場合によっては部長からお話しさせていただくこともあると思います。また、この場ではなく、市役所内で協議、議論をさせていただき、後日返答させていただくこともあるかと思えます。

すぐに実行に移せるものや時間のかかるもの、またいろいろな障害があるものなど、様々かと思えますが、皆様からのご意見をしっかりと受け止めてまいりたいと考えておりますので、ざっばらんにご意見をいただきますようお願い申し上げます。

今日は、お集まりいただき誠にありがとうございました。

参加者A

西地区に住んでいる者です。

旭川で一番困るのは、目的地によって始発のバス停がわかりづらいということです。

それで、駅が後ろに移動して空いたところに札幌のようなバスターミナルがあると最高によいと思います。

札幌は、市内であればどこでも200円で行けるんです。遠くても近くてもオール200円。これは最高だと思ひまして、旭川もそうなってほしいと思います。

そして、道内各地からも来るバスもターミナルに集まってきて、誰もがわかりやすく迷わないようないい方法を旭川でも取り上げてほしいと思います。

市長

バスについてのご意見ありがとうございます。

今、バス停はアサヒビル前、駅前ビル前、駅側のほか、1条通と4条通にも分かれていきます。

将来的にはそれらのバス停をなるべくわかりやすい形で集約したいと思ひますが、当面は、駅が後ろに移動して空いたところにバスターミナル、バスセンターを予定しています。そこに、アサヒビル前と駅前ビル前、駅側のバス停を移す計画を立てております。

スペース的に、1条通と4条通のバス停を集約することは難しいですが、なるべくわかりやすくなるように取り組んでいきたいと思ひしております。

また、路線もわかりやすく組み直してもらえるように、バス会社にも働きかけていきたいと思ひます。

札幌のオール200円は素晴らしいですね。残念ながら旭川ではそうなっていません。バス会社でやってくれるといいんですが。

参加者A

札幌でやってるんだから旭川でやってください。

市長

バス会社と話をしていかなければならないと思ひます。

部長からなにかありませんか。

生活交流部長

バス運賃の話が出ましたが、旭川と札幌の決定的な違いについて説明させていただきます。

札幌のバスと地下鉄が市営であるのに対して、旭川のバス事業は民間企業がやっているという決定的な違いがあります。

また、バス運賃については、平成18年から一部負担金をいただくことになりましたが、高齢者の方々は距離に関わらずワンコインで乗っていただくことができる制度になっています。この制度についても、財政状況が厳しい中で一定の負担をお願いすることになったわけでございます。

参加者A

この機会に、バス会社みんなで話し合っしてほしいなと思います。

駅周辺計画課長

北彩都あさひかわの鉄道高架事業に伴う駅前広場の拡張整備に当たり、皆さんが不便を感じているバス停をわかりやすいものにしていきたいということで、バス事業者と協議している最中でございます。

ただし、先ほど市長が話したように、すべてのバス停をそこに集めるというのは難しい問題がありまして、一定のものを集約することでできるだけわかりやすいものにしたという考え方で進めております。

参加者A

高齢者が乗りますし、本当に市民の足だからよろしく。

参加者B

まちづくり対話集会のように、市民と考え、ともに行動しようとする西川市長の政治姿勢に敬意を表します。これからも今の考えを貫き市政に取り組んでいただきたいと思えます。

私は、駅前周辺と買物公園の放置自転車の対策について話したいと思えます。

国際観光都市・旭川を目指すためには、まちをきれいにする必要があると考えています。今年2007年度予算案を発表し、市長は「種まき予算」と名付けました。この種を市民と行政が協働の考えで力を合わせて育てていかなければならないですし、旭川の豊かな未来をひらいていく種にしなければならないと考えているところです。

そこで、放置自転車の対策として、現在(社)旭川シルバー人材センターに委託していることを、NPO法人やボランティア団体、町内会、市民団体などを活用し経費を抑えて対応してはいかがでしょうか。

また、市の社会福祉協会の中に旭川市ボランティアセンターがあり、今までの業務は大変重要であります。この組織を一步踏み込んで発展させ、市が抱えている諸課題を組織化し、市民と共に考え行動するようにはいかがでしょうか。

今年から、団塊の世代の退職が始まりましたが、職業に退職はあっても人生に退職はありません。旭川市の高齢者、65歳以上の人口は2006年4月で約7万9千人おり、このうち自動車の運転免許を持っている人は約2万8千人おります。これから高齢化が進む中で、元気な高齢者が市が抱える諸課題の解決に積極的に関わり、社会貢献することにより生きる励みとしてはどうでしょうか。私は、放置自転車の対策を申し上げるについて、一生懸命に考え、努力、孝行したいと思っております。

また、旭川市民参加推進条例についても、行政として積極的に支援していただきたいとお願いするところです。

機会があれば、自転車利用における健康への効用と環境にやさしいまちづくりについての考えを述べたいと思っております。

市長

駅前に放置自転車がたくさんあるというのは、景観上も良くないですし、買物公園の中央に自転車が置いてあることにより歩行者にも迷惑をかけているのではないかとかつてから思っています。



その自転車を整理整頓することが大切になりますが、若干先のことでありますが、北彩都あさひかわの中で、駐輪場を駅構内に設置できないかということを考えております。また、JRの敷地のため市単独では決められませんが、鉄道高架に伴い高架下を活用し駐輪場を設置するなどして、買物公園の放置車両をなるべく減らしていくということを考えているところでございます。

また、現在はシルバー人材センターの皆さんに本当に安い報酬でやっていただいている訳ですが、無報酬でも自分たちの健康づくりのために自転車の整理整頓をやりたいという団体、ボランティア、NPOの方などがいらっしゃれば、今後検討させていただく材料になると思っております。

駅周辺計画課長

自転車は大変便利な乗り物として皆さん使われていると思います。

その結果、駅前と買物公園に1400～1500台くらいの放置自転車があります。

放置自転車については、北彩都あさひかわに合わせて、少しでも解消していく施策を行なうということで、近々「旭川市自転車駐車場基本計画」を策定するための協議会を設置いたします。その中で、駅前広場や高架下などで駐輪対策を検討していきたいということで進めてまいりたいと考えております。

参加者A

私も一昨年までは自転車に乗っていました。

買物公園の真ん中を自転車で通れるとどんなに便利かと思います。歩行者がいないところなので、お年寄りとか子どもが自転車で走りやすい。

両側は自転車が通れない、真ん中は通れるというように決まりができるとすごくありがたいと思います。高齢者は自転車があると本当に行動しやすいです。

駅周辺計画課長

買物公園は歩行者専用道路となっております、自転車は通れないことになっております。

自転車で通れると便利で快適に移動できるという面はあると思いますが、買物公園の趣旨は、歩行者の方だけがゆっくりと歩いていただけるということをご理解いただきたいと思います。

参加者A

世の中は変わってきているから、できた頃の決まりのままではないで、今の市民の要望を聞いてほしいと思います。

参加者C

西地区にすんでいる者です。

ごみ収集が8月から有料になりますが、資源ごみをいつでももっていける専用のステーションを常設していただきたいです。今までだと、日時に縛られていつまでも資源物が家の中に残っているという状態です。特に、マンションとかアパートのように狭いところに暮らしている方は、邪魔になってほかのごみと一緒にだしてしまうというふうになってしまうようです。ですから、いつでも持って行けるような場所をお願いしたいということです。

それから粗大ごみのことですが、旭川はちょっと値段が高いと思います。道内と全国80市を調査したんですが、物によって300円、500円、一番安いので150円というように細かく分かれています。旭川の場合は全部ひっくるめて1つ680円なんです。どう考えても高いと思うんです。それでなくても、ごみ有料化に伴い各家庭の負担が増大しますから、是非このところも考えていただきたいと思います。

市長

ごみの10分別は、リデュース、リユース、リサイクルということで、ごみをなるべく減らして限られた資源を有効ということでスタートしていることはご理解いただいていると思います。

マンションなどは、部屋のある一角がごみスペースになってしまいますよね。私の家もごみ箱が10個ありますから。

今のごみステーションは町内会単位で管理してもらっていますが、分別をするスペースをつくるというのは難しいのではないかと思います。何かいい方法はないかとかねてから思っています。

一軒家だと物置などにごみスペースとか作っているでしょうし、マンションではごみスペースを確保しているところもあるかと思いますが、アパートだとなかなかスペースがないでしょうから、なんとかいいアイデアがないかと思っています。

参加者C

資源物はその日という曜日を1つにしてほしいです。缶とビンは何曜日、紙、ダンボール、プラスチックは何曜日と分かれています。そうではなくて、資源物は何曜日と決めて、その日は缶でもビンでも、資源物は全部出していいというようにしてくれるといいですね。そのところ検討いただきたいと。

市長

なるべく集約していけるようにと思っていますが、分かれている理由として、市もしくは委託業者がごみを収集していますが、トラックの台数に限りがあり、1日に収集できる量に限界があるんです。それで、曜日を分けなければならないということがあります。

また、粗大ごみについて、各自治体によっていろいろと取り組まれているようですが、旭川は一律だったんですけど、どういうことで差をつけていくことができるかということ、今後検討させていただきたいと思えます。

参加者D

2003年に市議会でごみ処理の適正化を求めるということで、全会一致で採択されたことがあるんですね。それは、資源化できるごみや生ごみは埋め立てないということ。事業系ごみが廃棄物処分場に搬入されているわけですが、カラスととんびがすごくて、農家ではネットを張って、その中で農作業をしているという形なんです。取りにいったときにテグスで手を切ったりとか、そういうことも起こっています。この事業系ごみの生ごみを廃棄物処分場に入れなくてほしいということなんです。

いっぱい問題はありますが、市民とともにしっかりやっていく市民参画が必要だということなんです。

市長

廃棄物処分場から川への汚水の流出については、今後もしっかりと監視していかなければならないと思っております。

事業系ごみの搬入、特に生ごみですね。新年度からなんですけど、事業系ごみの中に生ごみが入っているトラックは入れないようにすることを予定しています。しっかりと監視して、もし生ごみが混ざっていれば、そのトラックには引き上げていただいて、業者でしっかりと分けてもらってからでないと入れないということで、廃棄物処分場を長く使用していきたいと考えております。

参加者A

西地区は火曜日が生ごみ、燃やせないごみの日なんです。その時に捨てられているごみを見ると、もっと勉強してほしいと思います。まだ食べられると思うものが捨てられている。だから、もっと市民が食べるものについて考えて、勉強しなくちゃいけないと思います。

生ごみはカラスがつつくので、黄色い袋にしたらいいなと思います。

参加者E

市長にお願いしたいことがあります。私たちは、防犯関係で青パトを出しています。地区内の小中学校4校の子どもたちの登下校における声かけ運動として始めました。今のところ月1回程度、放課後の子どもたちが塾に行ったりする時間帯にも、分担しながら青パトを走らせています。初めのころは、いろいろな資材などもかかっていたんですけども、町内会の協力をいただいて、なんとかお金を工面していました。一番大きいのは、ガソリン代です。青パトを1回に2台ないし3台出していますが、相当走行しているの、相当なガソリン代がかかります。これについて実費の助成を市で見えたいと思います。各学校の校長先生や教頭先生に話を聞くと、大変効果が上がっているということです。始めた頃は、刃物を持った不審者が子どもたちの帰りを待ち伏せして、付きまとったという事件もありました。それで早速、私たちがこのような組織をつくり、その後警察で許可していただき、車で回るようになりました。そういうことを考えますと、子供たちの身を守るということで、大変喜ばれており、是非この事業は継続してやっていきたいというのが私たちの願いです。それでガソリン代の助成が何とか市の方で見えたいということを市長にお願いします。

市長

青パトのパトロールで地域の子どもの安全を守っていただき本当にありがとうございます。市としても、是非これからも継続していきたいと考えております。また、他にも子ども110番の車ですとか、学校単位でボランティアの方をお願いして周辺を回ってもらったりですとか、地域地域でいろいろな子どもを守る取組をされているかと思っております。やはりガソリン代はかかるものですから、その辺を今後市として助成をすることができるかということ、そのようなご意見をいただきましたので、是非検討させていただきたいと考えております。

参加者F

ごみ有料化の実施にあたり、ごみ有料化実施計画のパブリックコメントが出されました。パブリックコメントに寄せられた意見の中で、有料化に賛成した意見は、231意見中4意見だけでした。1名は不法投棄に対してきちんと対処できるのならという条件付きでした。この4意見という数は全体の1.68%に過ぎません。ほとんどの方が有料化には反対です。多い意見としては、有料化ではごみ減量化にはならない、減量化になったとしても一時的なこと、これ以上の生活負担はいやだ、不法投棄が増え、まちの緑が減ってしまうのではないかと、などです。それに対して、環境政策課は集計結果を報告せず、98%という圧倒的な多数の反対意見に対する回答はありませんでした。また意見に対する個別的回答も的はずれなものが多く、有料化に反対という市民の声に答えるものではありませんでした。ただパブリックコメントをやってみただけというおざなりな態度に終始しています。市長は是非このごみ有料化には反対という市民の声に真摯に答えてください。また有料化に際して、生活保護以下の生活実態の方については個人資産の計算ができないので、補助はできないという、とても冷たい環境課の答えでした。このことについても是非考えてください。

市長

貴重なご意見をありがとうございます。

パブリックコメントの中では、やはり圧倒的な方が有料化に対して反対されているということについて、市長就任前からそういう認識は持っておりました。ただ、パブリックコメントの位置づけを、市としてしっかり市民の皆さんに申し上げなければいけないのかなと思います。住民投票のようなものとは違うと思うんですね。というのは、市としてこういうようにやるというような思いの中で、議会ではもちろん採決がありますんで、議員の皆さんに

賛成してもらわなければ、当然それはできないことなんですけれども、パブリックコメントでは、その中で市民の皆さんがそれに補足するとか、また私どもが想像し得なかった部分についてのご意見などを取り入れさせていただきたいというような思いで、パブリックコメントを行ったのだらうと思っております。

参加者F

やはり生活保護以下の生活実態の方も多いと思います。本当に生活が大変な中で、ごみの有料化はそういった方々にとっては切実な問題です。それについては、資産の計算もできないからやりませんというのは、とても冷たい答えです。本当にそのことは考えてほしい。生活保護以下の年金暮らしの方とかは多いんですよ。是非このことを考えてください。

市長

本当に大変なことだと思っております。例えば生活保護の方にはごみ袋を枚数を決めて支給させていただくとか、所得の低い世帯、障害を持っている方など様々な方に対しては、個別には若干ありますが、そういった部分についても、さらに今後、検討の余地が残っていないかどうかということを経験部と検討させていただきます。また、どういう方を対象にしたらいいかということを決めることは非常に難しいのかなとは思いますが、ただ、そこで言い切ってしまうのではなく、私どももそこから漏れている人達に対してどういう基準、どういう対象で助成対象を拡充ができるのだろうかということは、今後とも常に模索をしていかなければならないと思っております。今後、ひとつひとつ時間をかけて考えていきたいなと思います。それと、今回の有料化で、年間、億単位の収入になります。一つにはごみの収集を祝日にも拡充していくことを、皆さんからいただいたその料金により行っていきたいと思っております。祝日にもごみを収集することになると、祝日にトラックを動かし、人件費、ガソリン代もかかり、それもやはり大変高額のお金がかかるのですが、そういったことで還元させていただきたいということがございまして、また、いろいろごみ収集に関しての整備や行政における貴重な部分に使わせていただきたいという思いでおります。これらにつきましても、皆さんに後ろ指を指されることがないように、財源についてもしっかりと使ってまいりますということ、現時点ではお知らせさせていただきたいと思っております。また後ほど検討させていただきたいと思っております。

参加者D

ごみの有料化について、低所得者の方にも良い方法があります。現実に高山市で行われている方法なんですけれども、有料は有料なんです。ある程度の枚数までは無料で、それ以上になると高額な金額、だから、努力すれば無料で出せるんですね。でも、それ以上になると、ぐっと高くなりますよということなんです。高山市の場合、もし余った場合には市からリサイクル品のトイレトーパーなどが代わりにもらえるそうです。だから、その枚数よりも減らせばもっとうれしいことがあり、それよりも増やすと、お金がかかるという方法なんです。



また、ほとんど不法投棄がないことを電話で確認しております。市民にも市にも良いという方法はこれじゃないかなと思います。そして、生活水準が低い人はごみを必死になって減らし、お金がかからないように努力しますので、是非この方法をとっていただけたらと思います。

市長

高山市ではこういう例をすでにされているということなんです。

参加者D

そのほかに野田市も同じようなことをしていますが、野田市は1件あたりの枚数が多いですね。多いと努力しないので、やはりごみは減らないんです。ですから、枚数はある程度少なくする。そこが問題なんですよ。

市長

はい。貴重なご意見ありがとうございます。またこちらも、この場ですぐに回答できないので、検討させていただきます。

参加者A

ごみ問題について、家に封筒やはがきがたくさんたまります。たまった封筒やはがきをカットして出していいかどうか。それから、チラシがすぐ新聞に入ってきますが、これは本当に資源の無駄遣いです。私はほとんど読まないチラシがたくさん入ってくる。これなんとかならないでしょうか。資源の無駄遣いです。

市長

市としても、ごみを減らしていきましょう、なるべく過剰な包装は避けましょうなどの取組ですとか、ほかのまちではポリ袋、買い物袋を有料にしているまちやスーパーなども出てきていますが、買い物に行くときには、なるべく自分でカバンを持って行って、ごみを持ってこないようにしましょうなどの取組をしていきたいと思えます。非常に広範にわたってくる問題でありますので、時間はかかると思いますが、また、全国的に取り組んでいかなければならない部分もあると思えますが、何とかごみを減らしていきたいと思えます。

参加者G

町内会と市民委員会の仕事をいろいろとさせていただいております。今日もほとんどごみ問題に集中してありますが、ここ何年かでごみの分別、有料化など、その他市の財政難を理由にいろいろな新しい取組が町内会・市民委員会の方にきまして、それを町内に周知徹底するという仕事があります。私の西地区市民委員会は、旭川の64市民委員会の中で最も高齢化が進んでいる市民委員会です。さらにもうひとつ大きな特徴として、大型マンションが非常に多い地区です。結果として、市民委員会・町内会の加入率が50%少して約半数の市民が町内会・市民委員会の組織に無関係です。ごみの問題、分別、有料化についてを、周知して協力をお願いすることは、町内会の会員であれば何とかできるんですが、非会員、アパートやマンションの住人はどうしようもないんです。これについては今、市長も市としてすぐどうにかするという訳にはいかない問題だと思えますが、是非、町内会、市民委員会に入っていない市民に周知徹底する方法を研究していただきたいと思えます。これは、市民委員会の方としては切なる願いです。これがうまくいかないと、今度有料化になった時に、町内で管理しているごみステーションに、未分別とか違法のごみが残されていきますとどんどん溜まってきて、町内でごみステーションの管理は不可能になってきます。もうすでにごみステーションの管理を止めようという町内もあります。今日ご返事をもらう訳にはいかないテーマだと思えますが、是非研究してほしいと思えます。よろしくお願ひします。

市長

貴重なご意見ありがとうございます。

私も、年が明けてから、各市民委員会の皆さん、新年会、町内会の新年会に顔を出させてさせていただいておりますが、必ず総会の議題がどの町内でもごみの関係で、やはり一番大きな問題となっています。町内会に加入していない人たち、不法投棄、車で来て捨てていく人たち、これらを何とかしようというのは全市民的な今町内の一番の懸案事項ではないかなという認識でおります。この辺も非常に難しい問題ですが、再度今後の対策について何かいい方法はないかということで取り組んでいきたいと思えますが、各市民

委員会、町内の皆さま方からも、ご意見、素晴らしいアイデアなどがあつたら教えていただきたいと思っております。

旭川市の場合は、有料化に向けてごみ袋を購入していただくという形を取らせていただくということで進めておりますが、他の自治体では、例えばシールを購入して、そのシールに名前を書いてそれをごみ袋に貼り付けてステーションに出すというような自治体も結構あります。名前の書いてないごみは持って行かない、というような取組をしている自治体もあります。そのことにより不法投棄が減っているのか増えているのか、ちょっと私どもも、これから進んでいく段階でまだ統計としては持っておりませんが、いろいろごみの方法なんかも今後試行錯誤していかねばいけないと思っておりますので、貴重なご意見として検討させていただきたいと思っております。ありがとうございます。

参加者B

今の関連ですが、私の妹は旦那が退職して日野市から来たんです。日野市の場合はステーション方式ではないんですね。確か自宅に置くんですね。そうすると、非常に回収に手間はかかりますけれども、変なごみは出さない訳ですね。その場合に問題なのは、今、市長からお話があつたように、業者の回収車の絶対数ということがあります。市長も感じているとは思いますが、有料化に伴って一番心配なのは不法投棄の問題が気になってきます。私、実は不法投棄の調査員のボランティアをやつて数年経っているんですが、前は神居地区をやりまして、今は東鷹栖地区を調査員としてボランティアでやっています。有料化になった場合にですね、このボランティア組織を生かしながら、またかなり強化をしないと、河川敷なり橋の下などにどんどん不法投棄が出てくる危険性が大きいと思えます。

市長

戸別回収の件につきましては、本市でも有料化に伴って議論した経緯がございます。現時点では、やはりこの36万人という都市で戸別回収をするのは、運搬、ごみ、車、人件費等を考えると非常に難しいのではないかと、一定の結論には至っておりますが、有料化の導入によって、不法投棄等のいろいろな問題が出てきましたら、またいろいろ試行錯誤していかねばいけないという思いでおりますので、貴重なご意見としてお承りさせていただきます。ありがとうございます。

参加者H

私たちが一番悩んでいることは、やはり町内会に入っていない方がたくさんいることです。そういう方が、先ほどのごみの問題で一番迷惑になるようなことをしているんじゃないかと思っております。ですから、市の条例か何かで、婚姻届を出す窓口だとか他市町村から転入するときなどに、必ず町内会に入っていたらいいという資料・パンフレットのようなものを、市民課等に置いていただけたらと思います。

とにかく、今は町内の世話にならなくても生きていけるという考えを持っている方が多いです。これは旭川だけではなく、おそらく全国的にもそうした傾向があるのではと思います。昔は、隣近所も全部仲良くやっておりました。最近は、隣人の名前や勤務先も分からない。ですから、町内会長や役員も大変で、隣の人に名前を聞こうと思ったら、表札もかけていない、色々話しても「あなたに教える必要はない。個人情報保護法があります。」と言われる。本当にどうしたらいいものかと思えます。一番困るのはごみの問題です。よその町内から来てごみを捨てていく。それは誰が始末するかといたら、別の町内に持っていくこともできませんから、捨てられた側になりますよね。そういった町内に加入する方法という点も考えていただき、頑張ってくださいなと思います。以上です。

市長

ありがとうございます。

町内会の加入率低下というのは大変な問題です。それが結局、隣の人の顔が見えない

ということで、ごみはもちろんですが、ごみ以外でも例えば治安の悪化や犯罪の増加など、そういったことにもつながっていく問題であるとも認識しています。何とかこれも向上させていくことができるような努力、条例という話もありましたが、そういうことも含めて、大きな課題として検討させていただきます。

参加者A

団塊の世代の人たちが育った頃は、町内会に皆が入って、親がいなくても地域で子どもを育てていた。地域の子は皆で見てあげると、その地域は本当に良くなる。そういう時代に早くなってほしいと思います。

市長

貴重なご意見ありがとうございます。

生活交流部長

町内会の加入率低下に伴って、様々な問題が起こっているというお話ですが、実は行政では正面からこの問題を検討するということは、建前と本音とで難しい部分があると思います。国民全般と言った方がよいと思うのですが、権利意識が非常に強くなっている一方で、公共の負担や義務といったところが薄れてきていて、そこに個人情報保護というのがひとつの流れとしてあります。このこと自体は非常に大切なことですが、これがややもすると、本来その方の人権を守るための個人情報保護であったものが、何もかも知られたくないというところになってしまう。結局、色々な社会保障施策のために、国が調査をするときの協力が得られないといった問題もあります。

そうは言いつつも、実態として、地域コミュニティに一番近い活動をしているのは、通常、市民委員会や町内会です。旭川市でも今、全市的に65歳以上の方が23%くらいになってきています。当然、高齢者の独居世帯も各地域で増えてきています。

そうすると、本来の健全な地域コミュニティであれば、例えば除雪のことで地域の方がしてあげるとか、元気かどうかの確認ということも、望ましい近隣関係の中でそうした課題が解決していく。災害があったときも、そういう助け合いの精神が地域にあることが望ましいのは間違いないわけです。

町内会への加入・未加入を建前でいいますと、それは個人の自由であろうということにはまさにその通りなのですが、住民組織とかコミュニティが、これからも良い地域・良いまちをつくっていく上で非常に大事な存在であるという大本のところを、私どもとしても、繰り返し市民に呼びかけていくことも必要なんだろうと。そういう中で、できることをやっていきたいと考えています。

参加者A

地域コミュニティについて、結局、今は自分の子どもが良くなればよいと思って塾に行かせますが、私は塾には反対です。地域で、地域の子どもたちをきちんと見てあげるのが一番いい。地域のことを何も勉強していないで自分のことだけやっている、そこからはずれたときに、社会的に孤立した人間になってしまうと思うんです。

参加者I

ご存知のように、中央地区には買物公園と常磐公園があります。この二つについて聞きたいと思います。

買物公園は空洞化と言われ、ひと頃はシャッター通りと言われたこともありますが、1条から4条まではどうやら徐々に良くなってきているかと思います。しかし、5条から8条までの対策はどのようになっているのか。買物公園は宮下通から8条までで、この北側は全く無策状態となっています。これをどのようにするお考えなのかをお聞かせください。

それからもう一つ、常磐公園は旭川の憩いの場所となっています。この池の水が非常に濁っていて、これをもう少しきれいなものにして、恥ずかしくないよう常磐公園にしていきたい

と思っています。その対策はどの考えておられるか。以上2つの点でお願いします。

市長

長年の懸案事項となっている、買物公園の5条以北の賑わいをどうやって取り戻し、高めていくかということで、これまでの市政でも当然取り組んできていますが、まだ賑わいは戻っていない状態だと私も思います。旭川駅から常磐公園に至る買物公園周辺を、何とか賑わいのあるものにしていきたいとの思いでありますが、行政として、これが特効薬だというものは現時点では見つかっていません。

しかしながら、例えば道路基盤などは整備されてきていますし、また魅力ある店舗を並べて、人に来てもらえるようなまちづくりというのも非常に大切だと思います。駐車場がなくて不便だということであれば駐車場をもっと整備するとか、色々あるとは思いますが、商店街の皆様や多くの方の声を聞かせていただく中で、積極的に賑わい創出のために頑張っていきたいと思っています。これについても、再度、市役所の中で協議させていただきたいと思っていますので、よろしく願い申し上げます。

また、常磐公園の池については、これまでに浄水を試みてきているのですが、ちょっと詳細な資料を持ち合わせていませんので、庁内で検討させていただきたいと思います。

企画財政部長

市長が申しあげました買物公園の対策ですけれども、一つは今、TMOが新たに入ってきておりますが、中心街の活性化ということで、商工観光部が一定の事業を組んでいます。

まちづくりというものには、こうすればこうなるという方程式のようなものはありません。いろんなことをやっていくプロセスの中で、一つずつ実を結ぶものなのかなと思います。今年度も一生懸命行う予定でいます。

常磐公園につきましては、市民文化会館の前から緑道を真っ直ぐ行くと美術館があり、園路沿いに旧科学館、川のおもしろ館、公会堂、図書館といった施設がありますが、この部分の面的整備を行うよう、市長からの提案を受けて行っていきたいと考えています。ご承知とは思いますが、市の公会堂を取り壊さずに、市民の専用劇場としてリニューアルしたいということで市長から指示を受け、今年度より2千万円の予算をつけて順次改修していくことになっています。それから、旧科学館につきましても、プラネタリウムの部屋を子どもたちへの読み聞かせなどに活用できないかということで、整備をしようとしています。緑道から続いて、公会堂や川のおもしろ館、旧科学館。施設を新たに建てるのではなくて、リニューアルしていくということで、そういった整備によって人が集まったりイベントができることで、5条以北の活性化にもつなげていきたいと考えています。また、その周囲には彫刻がたくさんありますので、できれば、緑道・常磐公園の中に彫刻を置いたような静かな景観、そして文化的施設という形でのまちづくりを、市長から指示を受けて今年度より検討することを考えています。

参加者I

中央地区は旭川の玄関口であり、その中心となる顔です。その顔が汚れていては観光都市とはいえない、また市民も胸を張って言えないのじゃないかと思うので、都心部の開発についても念頭に置いていただき、ご協力いただきたいと思います。

参加者J

買物公園について話したいと思います。

買物公園の人が通らない中央部分、空いているところにコンテナや小さなプレハブなどを置いて、そこを数万円程度の賃料で貸して、希望者を募ったらいいんじゃないかと思うんです。就職難で何かやりたいけどやれないという人たちのためにも、ぜひそういうことを考えてほしいです。買物公園を活性化するためにも、小さな事業を起こして、市にとっても自営業をする若者にとってもいいと思いますが、市長のお考えをお聞かせください。

市長

貴重なご意見ありがとうございます。

買物公園の空いているところにコンテナ等を置くという、素晴らしいアイデアだと思います。昨年、夏場限定でしたが、市と商工会議所で4条に「旭川屋」をさせていただき、今年もあの取組を、設置場所はこれからですが、やっていきたいなと思います。で、その延長線上にそういったところ増やしていく。必ずしも市が主導ではなくて、民間の方たちに開放する。一つの大きな検討材料かなと思います。

しかし、少し心配なのは法律上の問題がどうかということです。消防法に関して、火事の際に消防車が入れるようなスペースは確保しなければならないという話を聞いたことがあります。消防車や救急車などが入れるスペースを確保できるかという問題ですね。また、買物公園は元々道路で、歩行者天国という中で、その土地の利用上、もしかしたら制約があるかとも思います。また市内でも検討させていただきたいと思います。

参加者J

旭川には屋台がないと思います。ぜひ旭川で屋台が出せるようにお願いいたします。

市長

昔は旭川にも屋台があったそうです。私が産まれる前ですけど。

今も福岡の中州などに行くことがありますね。私が知りうる範囲では、衛生上の水の問題でなくなったというのを以前に聞いたことがあります。旭川市でやるということになりますと、銀座通商店街のように、きちんと水道施設があるところでしたらできるんでしょうけど。いいアイデアだなと思いますので、これもぜひ色々な方と検討させていただきたいと思います。水道の施設がすぐそばにあれば、比較的法的な問題もクリアできるかなと思いますが、なかなか水を引くということになると、衛生上、食中毒ですとか色々問題があるかとも思います。ただ、ほかのまちではやっているところもありますので、旭川でも実現できるかどうかということを、皆さんと話したいと思います。

市長あいさつ(終わり)

今日は約1時間30分という限られた時間ではありましたが、多くの方から貴重なご意見をいただき、本当にありがとうございます。また、私の含めて市職員も同席して、皆さんと一緒にこういう時間を持つことができたことは、私どもの財産であり、今後ともぜひ継続させていただきたいという思いを改めて感じているところです。

今後、持ち帰って検討させていただき、場合によっては様々な関係機関とも調整・協議をする中で、今後のまちづくりにぜひ生かしていきたいと考えています。また、今日、検討事項として持ち帰らせていただくことにつきましては、今後皆様方にご返答させていただくことを考えていますので、よろしく願いいたします。

今日は本当にありがとうございました。